

通 信

沖縄生物学会第59回大会のお知らせ

沖縄生物学会の第59回大会を下記の要領で開催いたします。新型コロナウイルス（COVID-19）の国内外での感染状況、刻々と変わる情勢と今後の予測などを考慮し、完全オンラインでの一般講演・総会・池原貞雄記念賞授賞式・受賞講演といたします。大会に関連した詳細な情報は今後、随時学会ホームページ上で掲載してまいりますので、ご確認くださいませようお願い申し上げます。本大会は参加費無料として開催いたします。多数の会員のご参加をお待ち申し上げます。

第59回大会：Zoom（Zoom Video Communications, Inc.が提供するWeb会議サービス）
を利用したオンライン開催

日時： 2022年 5月28日（土曜日）

大会参加費：無料

備考：申込人数と運営上の都合に応じて、複数のZoom講演会場に分けて実施する場合がございます。今大会はオンラインでの参加のみとなりますので、なにとぞご了承ください。

◆ 参加・講演申込

沖縄生物学会第59回大会へのご参加を希望される方は、2022年2月中旬頃に学会ホームページに掲載予定の大会実施案内に記載される所定の申込方法にて、参加をお申込み下さい。完全オンライン開催に伴い、メール等での参加案内・詳細連絡を前提とした事前の申し込みにご協力ください。また講演を希望される方については、講演申込に加えて、指定された期日までに所定の方法にて要旨の提出をお願いいたします。詳しくは以下の「講演要旨の作成要領と提出方法」をお読みください。講演は原則として、お一人一件とします。お一人で複数のご講演はなにとぞ遠慮ください。また、講演者もしくは共同講演者に少なくとも一人の会員が含まれている必要があります。

オンライン開催のため、大会 ZoomURL 送付先として、確実に連絡が可能な参加者のメールアドレス把握が必要です。参加・講演申込の受付後に、大会準備委員会から折り返し受領確認の連絡メールを送信いたしますので、必ずご確認ください、メール受信の確認返信をいただけますようお願いいたします。また、大会に向けて、要旨投稿先および講演者向け情報などをメールにてお知らせする場合がございます。

◆ 講演について

- ・口頭講演のみ（ポスター発表はございませんのでご注意ください）。
- ・Zoom を使用したリアルタイムでの講演と質疑応答を行います。
- ・講演は、Zoom の画面共有機能を用いて行います。演者が講演スライドを画面共有すると、聴衆は同じスライドを自身の PC・タブレット・スマホ画面上で見ることができます。
- ・講演時間は、接続時間・質疑時間を含め **15 分（講演 12 分、質疑+講演者入替 3 分）** です。
- ・申し込み数により、複数のオンライン講演会場を設置する場合もございます。
- ・参加者および講演者は、事前にお知らせ予定の URL により Zoom へアクセスし、講演および聴講を行います。
- ・ご所属の機関によってはセキュリティ上の理由などにより、Zoom の使用が制限されている場合があります。事前に接続条件などをご確認の上、該当する場合は自宅等からの参加をご検討ください。

会員の皆様の日頃の研究成果を発表する場として積極的にご参加くださるようお願いいたします。

◆ 講演要旨の作成要領と提出方法

講演要旨原稿ファイルは以下の要領で作成し、**PDF 形式に変換したファイルのみを受け付ける**ことと致します。提出方法については、講演申し込み者へメール等でお知らせする予定です。要旨ファイル提出の際には、ファイル名を「**講演者氏名**」として下さい。フォントは MS 明朝体 11 ポイントとし、英文の場合は Times New Roman とします。その他、句読点等の書式は**沖縄生物学会誌投稿規定 (<http://www.okibio.jp/publish/02.html>)** をご参照ください。演題、講演者、本文を含めて **800 文字以内**とします。図表は要旨の中には入れないで下さい。要旨作成例について下記に記載しておりますので、必ずご確認ください。なお、本大会では要旨集は PDF ファイルでの配布のみとし、印刷はいたしませんのでご了承ください。また、沖縄生物学会誌への講演要旨の掲載をおこなわないことをあらかじめご承知おきください。

講演要旨提出の締め切り：2022 年 4 月 15 日（金）17：00 まで

締め切り後の講演要旨の受付は一切いたしません。また、要旨の体裁を含む修正・差し替え等についても対応いたしかねます。事前に要旨 PDF ファイルをご自身で十分ご確認の上、提出をおこなうようにしてください。**締め切り厳守**にてお願いいたします。

◆ 要旨作成例

潮下帯砂泥底に生息する穴居性甲殻類

○成瀬貫（琉球大・熱生研・西表）・吉田隆太（お茶ノ水大・湾岸生物教育セ）

潮下帯の砂泥からなる海底には、無数の穴が散在していることがよくある。これらの穴は様々な生物の活動により形成されている場合がほとんどと考えられる。しかしそれらの穴の

タイトル（太字）、発表者、所属は MS ゴシック 11 pt

所属は短縮

発表者に○

本文は MS 明朝 11 pt、段落は複数可。句読点は、. を使用。

国立自然史博物館誘致の現状報告

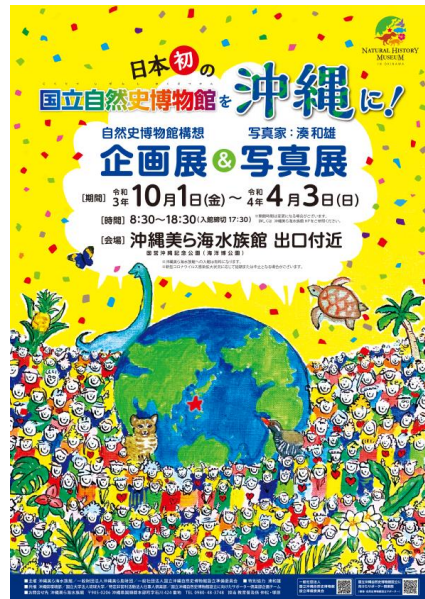
国立自然史博物館誘致活動の一環として、**自然史博物館構想企画展（右図）**が沖縄美ら海水族館出口付近で開催されています。当初、この企画展は7月21日～9月20日に開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大とそれに伴う沖縄美ら海水族館の休館により延期されておりました。沖縄県を含めた全国の新型コロナウイルス感染状況が落ち着いていることから、美ら海水族館の開館とともに10月1日から企画展が開催されました。

企画展開始当日には、佐藤圭一（沖縄美ら島財団統括）、岸本建雄（国立自然史博物館設立準備委員会委員長）、西田睦（琉球大学長）、松田了（沖縄県環境部長）等の各氏が参列してオープニングセレモニーが行われました。この企画展は来年4月3日まで実施されておりますので、皆様是非ご覧下さい。なお、この企画展に併せて、湊和雄氏による写真展が開催されております。



左のYouTubeに関連映像（国立沖縄自然史博物館構想への誘い～沖縄美ら海水族館～）がアップされております。こちらも是非ご覧下さい。なお、映像とともに流れている音楽は、スパニッシュギターユニット「ドンアルマス」の桜庭伸弘氏が自然史博物館誘致のために書き上げた楽曲（DROP）です。

<https://www.youtube.com/watch?v=Xfj3pc4cJfk>



沖縄県立博物館・美術館特別展「みんなの進化展」見学報告

今年、沖縄県立博物館・美術館において『特別展「みんなの進化展」～命はつながっている～』が7月21日（水）から9月20日（月）の期間開催されました。ところが、新型コロナウイルス感染症防止のため、7月22日から9月30日までの間、臨時休館となり、結局オープンしたのは7月21日の1日だけとなりました。

沖縄生物学会としても後援しており、いつかは再開できるものと期待をしていました。しかし、その再開のメドがたたなくなり、そのまま特別展の幕を閉じることになるとの連絡がありました。多くの方々にもてもらえないまま終わるのは大変残念です。学会としては一部の代表者だけでも展示をみておきたいという希望があり、博物館側と調整の末、ごく少人数による見学を条件に承諾していただきました。

8月29日（日）午前10時、人影もなく静まりかえった博物館を訪問しました。福岡にいる伊澤会長は緊急事態宣言下で移動できず、結局、当山副会長と戸田代表幹事の二人だけで見学しました。写真は、案内していただいた菊川章学芸員とのものです。約1時間余をかけてみました。素晴らしい展示で、そのまま終了してしまうのが残念でした。細かい展示の状況は省略しますが、下記の博物館のアドレスから展示の様子が動画で説明されていますので、ご利用ください。



展示全体の流れがわかる
（YouTube版）
章ごとの展示解説

<https://okimu.jp/museum/column/1634175438/>
<https://www.youtube.com/watch?v=Dp4kny7qQAg>
<https://okimu.jp/exhibition/evolution/>



沖縄生物学会第 58 回大会・総会報告

沖縄生物学会第 58 回大会が、2021 年 5 月 29 日（土）にオンライン大会として開催されました。2020 年 12 月に大会の案内を配信した段階では、琉球大学内にオンライン発表を視聴できる会場を設ける可能性も示されていましたが、新型コロナウイルスをめぐる状況が悪化したためそのような会場の設置は見送られ、完全オンラインでの開催となりました。大会実行員長は、琉球大学理学部生物系の中村崇庶務幹事が務めました。オンライン形式ということもあり、通常の演題としては一般枠として申し込みされた口頭発表のみでしたが、演題の総数は 41 件と多く、2 会場を設けての開催でした。途中、一部の公演で通信に不具合が生じましたが、昼休みを使って補うことができ、全体としてはほぼ円滑にプログラムが進行しました。その後も夕方 17:00 を過ぎるまで様々な分野にわたる研究成果の発表が続き、活発な質疑がなされました。

同日 13:00 からは、オンライン会場の 1 つを使って、第 11 回池原貞雄記念賞（2020 年度）の授賞式の様子を伝える動画の配信があり、続いて、受賞者である安座間安史氏（教育功労部門）と、公益財団法人沖縄こどもの国（環境保護部門）を代表して金城輝雄氏が受賞講演を行いました。同賞の授賞式・受賞講演とも、本来は 2020 年度の第 57 回年次大会で行われるべきものでしたが、新型コロナウイルス（COVID-19）の影響で今年の第 57 回大会が中止になったことに伴い、授賞式はほぼ 1 年遅れの 2021 年 5 月 16 日に公益財団法人沖縄こどもの国の会場を借りて行われ、受賞講演は丸々 1 年遅れの今年の大会での発表となりました。

次いで、13:50 からは同じオンライン会場を使って本学会の総会が開かれました。伊澤会長による挨拶のあと、議長として、琉球大学理学部の今井秀行氏が選出され、議事が進行されました。

報告事項として、戸田守代表幹事から 2020 年度事業について、従来通り 2 通の通信の発行と、同日の第 58 回大会の開催の報告がなされました。続いて藤田喜久編集幹事から沖縄生物学会誌 58 号の発刊報告、つづいて、同学会誌の投稿規定の改正および著作権規定の制定の報告、さらに学会年次大会の講演要旨を今後は学会誌に掲載しない旨決定したとの報告がなされました。その後、池原貞雄記念賞選考委員会の当山昌直委員長より、第 12 回池原貞雄記念賞の選考について、推薦者がなく、該当者なしとしたことが報告されました。同じく報告事項として、竹村明洋自然史博物館設立準備委員長から、「国立自然史博物館誘致シンポジウム～沖縄に自然史博物館があったなら～」が、2021 年 2 月からオンライン配信され、のべ 480 名が視聴したこと、2021 年 7 月からの沖縄県立博物館・美術館での特別展「みんなの進化展～命はつながっている～」でも、国立沖縄自然史博物館設立構想を紹介する予定であることが告げられました。また、戸田守代表幹事から、その「みんなの進化展～命はつながっている～」は世界自然遺産登録や国立自然史博物館設立の動きも見据えて企画されたものであり、これらに深く関連する学会として本学会に後援依頼があったこと、そしてそれを幹事会で承認し、会長名で回答したことが報告されました。

審議事項では、まず戸田守代表幹事から役員の変更について提案がありました。奇数年の今年原則任期満了に伴う再任・改選はありませんが、変則的に城間恒宏監査員 2 期目再任と、沖縄生物教育研究会会長の改選に伴い、上間勉副会長に代わって豊島正憲氏の副会長への就任の提案がなされ、ともに承認されました。続いて、2021 年度事業計画として 2 回の通信発行と次期年次大会開催の提案・承認がなされました。次いで、傳田哲郎会計幹事から 2020 年度決算報告、富永篤監査員から同監査報告があり、それらが承認されたあと、再び傳田哲郎会計幹事から 2021 年度予算案が提示され、承認されました。最後に当山副会長から閉会の挨拶があり、総会を終了しました。

第13回 沖縄生物学会池原貞雄記念賞候補者の募集

第13回沖縄生物学会池原貞雄記念賞の候補者を募集します。規約にあるとおり、本賞は沖縄の生物の研究・教育・環境保護の各分野で活躍している会員または団体、および将来の成果が期待される若手会員に対して贈られるものです。会員の皆様からの積極的な他薦または自薦をお願いします。参考までに、池原貞雄記念賞表彰規約は学会HPを確認ください。受賞者の決定は選考委員会で行われ、沖縄生物学会大会開催時に授賞式を行います。

池原貞雄記念賞候補者推薦要領

1 推薦方法

別紙様式の表彰候補者推薦書（様式1）、推薦理由書（様式2）、履歴書（様式3、個人推薦の場合のみ）、団体の概要（様式4、団体推薦の場合のみ）各2部を添えて、沖縄生物学会池原貞雄記念賞事務局あて郵送にて提出する。

2 推薦人員

(1)各会員が推薦できる人数は、一部門の1名または1団体とする。

3 候補者の例示

- (1) 表彰規約3の2の(1)は若手研究者を優先とする。
- (2) 表彰規約3の2の(1)でいう表彰の対象者とは、例えば以下に該当するものをいう。
ア) 沖縄の生物に関する論文、講演などの実績があるもの。
- (3) 表彰規約3の2の(2)でいう長年とはおおむね10年以上とする。
- (4) 表彰規約3の2の(2)でいう表彰の対象者とは、例えば以下に該当するものをいう。
ア) 沖縄の生物・環境に関する教育・普及啓発活動に実績があるもの。
- (5) 表彰規約3の2の(3)でいう表彰の対象者とは、例えば以下に該当するものをいう。
ア) 沖縄の自然環境の保全に関する活動実績（書籍、事業、イベントなど）があるもの。

4 候補の対象としない者

(1) 過去に当記念賞を受賞した者。

5 応募方法

- (1) 沖縄生物学会通信および学会ウェブサイトにて公募する。様式はウェブサイトからダウンロードできる。
- (2) 表彰規約3の2の(1)でいう研究部門については、代表的な論文5編以内（コピー可）を添付すること。
- (3) **応募締切は2022年1月末日（当日消印有効）**とする。
- (4) 応募書類の送付先
〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町千原1 琉球大学理学部海洋自然科学科内
沖縄生物学会池原貞雄記念賞事務局 宛

6 留意事項

受賞者には自らの研究または活動の概要を受賞講演として沖縄生物学会大会で紹介していただきます。

問い合わせ：

本件に関する問い合わせは、学会事務局へメールにてお願いします。
〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町千原1 琉球大学理学部海洋自然科学科生物系
Tel: 098-895-8577 Fax: 098-895-8576 E-mail: okibio@w3.u-ryukyu.ac.jp

令和3年度 沖縄生物学会 第1回評議員会報告

沖縄生物学会評議員会が2021年11月11日(水)の18:45から開催されました。新型コロナウイルス(COVID-19)はやや落ち着いた状況にありましたが、引き続きリスク回避を図る必要があることから、琉球大学理学部の528室を会場としながらも、会長・副会長および多くの評議員がオンラインで参加するハイブリッド方式の評議員会となりました。参加者は幹事を加えて22名でした。

【報告事項】

はじめに報告事項として、1)国立自然史博物館設立に向けた最近の取り組み、2)今年夏に開催された沖縄県立博物館・美術館の特別展「みんなの進化展」(沖縄生物学会後援)の見学、3)次号学会誌の編集の進捗、4)評議員の任期の4つの項目に関し、それぞれ担当の幹事あるいは当山副会長から報告ないし連絡がありました。

【審議事項】

1. 沖縄生物学会第59回大会の開催について

2022年度の年次大会である第59回大会の開催形式について議論がなされました。沖縄で数ヶ月に及んだ新型コロナウイルスの緊急事態宣言がようやく解除されるなど、評議員会が開催された11月の時点では比較的安定した状態でしたが、やはり先行きは見通せず、次年度に終息しているとも見込めないことから、前回に続いて第59回大会もオンライン開催とすべきであろうという案が示され、議論を経て承認されました。開催日は2022年5月28日(土)とし、大会実行委員長を琉球大学理学部の中村崇庶務幹事として開催の準備を進めていくことが承認されました(詳細は、本通信1-2ページをご覧ください)。琉球大学に実行委員会を置き、中村崇幹事の指揮のもと開催するのは2年連続ということになりますが、オンライン開催という特殊事情もあり、今年度の大会運営の経験を活かしながら開催に向けて準備していくのが合理的であるということになりました。ポスター発表を受け付けることについても検討されましたが、準備や当日の運営にかけることのできる労力にも限界があることから、それは見送ることで意見が一致しました。そのほか、運営にかかる費用や、今年度の大会の前後に参加者から聞かれた意見などについても確認し、大会参加費は徴収しないこと、その他の詳細は実行委員会で検討していくことになりました。

2. 第13回池原貞雄記念賞の募集について

第13回池原貞雄記念賞の募集について、通信(本通信)と学会ホームページで情報発信し、例年と同じく1月末日を締め切りとするという提案がなされ、承認されました。加えて、第12回池原貞雄記念賞の募集では推薦がなく、該当者なしとなったことについて、評議員やその周囲でも、自薦他薦を問わず積極的に推薦を働きかけていくことが望ましいという確認がなされました。特に団体の場合は被推薦者は会員に限らないことも強調されました(推薦基準や手続きについては本通信5ページおよび学会ホームページをご覧ください)。

3. 通信109号(本通信)の内容について

次回大会の案内を中心に内容を議論し、その項目立てと主な内容が承認されました。

4. 2022年度3学会合同例会とシンポジウムについて

第59回の年次大会もオンライン形式で開催し、その中ではシンポジウムは実施しないこととした。そのため、本学会として別の日程でシンポジウムの企画を行うのは難しいことから、3学会九州地区会に企画・開催をお願いし、本学会としては参加だけさせてもらう方針をとることが承認されました。

沖縄生物学会 役員一覧表

沖縄生物学会の会長、副会長、監査員および評議員は下記のとおりです(2021年12月時点)。任期は2年間で、2022年5月の総会までです。

会長 伊澤 雅子(北九州市立自然史・歴史博物館)
副会長 当山 昌直(沖縄大学地域研究所) 豊島 正憲(沖縄生物教育研究会)

監査員 城間 恒宏(沖縄県教育委員会)
兼久 和也(琉球大学) 富永 篤(琉球大学)

評議員

大学関係 比嘉 俊(琉球大学) 金城 和三(沖縄国際大学)

渡邊 謙太(沖縄工業高等専門学校)

研究機関 米倉 浩司(沖縄美ら島財団)

長田 智史((一財)沖縄県環境科学センター)

糸 正幸((株)イーエーシー)

行政機関 菊川 章(沖縄県立博物館・美術館)

高校関係 大城 直輝(豊見城高校)

花原 努(コザ高校) 照屋 香(沖縄工業高校)

中学校関係 原戸 鉄二郎(安慶田中学校)

池原貞雄記念賞選考委員会委員長 当山 昌直(沖縄大学地域研究所)

自然史博物館設立要請委員会委員長 竹村 明洋(琉球大学)

庶務幹事 戸田 守(代表幹事:琉球大学) 中村 崇(琉球大学)

杉尾 幸司(琉球大学) 竹村 明洋(琉球大学)

山川(矢敷) 彩子(沖縄国際大学) 小林 峻(琉球大学)

江藤 毅(琉球大学)

会計幹事 傳田 哲郎(琉球大学) 玉城 歩(琉球大学)

編集幹事 藤田 喜久(沖縄県立芸術大学) 城ヶ原 貴通(沖縄大学)

編集委員 佐々木 健志(琉球大学) 太田 英利(兵庫県立大学)

前田 健(沖縄科学技術大学院大学) 傳田 哲郎(琉球大学)

会員の方々からも沖縄生物学会への思い、ご意見、活動、紹介したい内容などがございましたら、事務局にお知らせいただくか、学会のホームページにお寄せ下さい。電子メールは、okibio@w3.u-ryukyu.ac.jp です。

沖縄県生物学会賛助会員

本学会にご協力いただいている賛助会員は下記の通りです。

株式会社 猪原商会 沖縄営業所 所長 小林宏行
〒900-0033 那覇市久米1丁目7番10号 (098) 868-6373

株式会社 イーエーシー 代表取締役 大石正明
〒901-2127 浦添市屋富祖3丁目34番17号 (098) 942-0085

沖縄環境調査株式会社 代表取締役 中村栄秀
〒900-0003 沖縄県那覇市安謝2丁目6番19号 (098) 861-7373

原稿募集のお知らせ

沖縄生物学会誌では、随時原稿を募集しています。投稿を希望される方は、投稿規定に沿って原稿（原則として電子ファイルのみを受け付けます）を準備いただき、投稿専用アドレス（journal@okibio.jp）までお送りください。

沖縄生物学会誌は、年1回発行されており、毎年3月末に発行される予定となっています。投稿された論文原稿の審査（査読）は、早くも2週間、通常は2ヶ月程度要しています。また、受理された原稿の編集・校正・印刷業者業者との調整などを考慮し、例年、1月末までに受理された原稿を同年3月に発行される号に掲載することになっています。

これらの発行スケジュールをご理解の上、ご投稿をお願いします。皆様の積極的な投稿をお待ちしております。

なお、投稿に関するお問い合わせについては、編集幹事の藤田喜久（journal@okibio.jp）までお寄せ下さい。

原稿送付先：journal@okibio.jp（沖縄生物学会誌 編集幹事）

沖縄生物学会

〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町千原1番地
琉球大学理学部海洋自然科学科生物系内
生物系事務室 TEL：(098) 895-8577
庶務幹事 中村 崇 (098) 895-8897
FAX：(098)895-8576, okibio@w3.u-ryukyu.ac.jp
振替口座（郵便）：02030-8-30433 沖縄生物学会